

## 河川整備計画（本文）

### 1.2.2 利水に関する現状と課題

圏域内の河川水は、古くからかんがい用水などに利用されています。今後もこうした河川水の利用に加え、河川やその他の水路における環境・景観保全の面からも引き続き適正な水管理を行っていく必要があります。

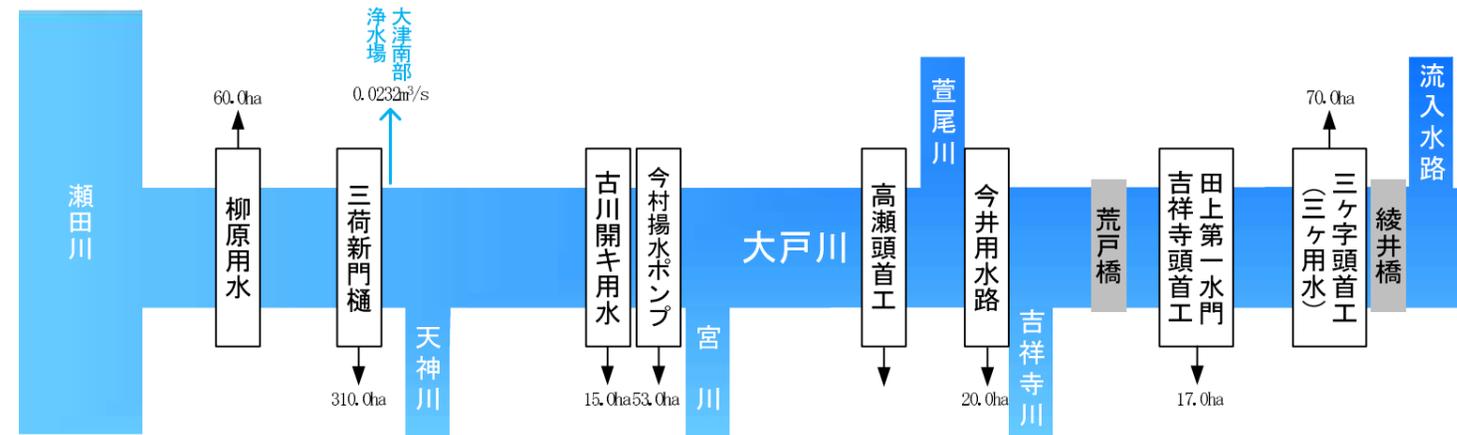
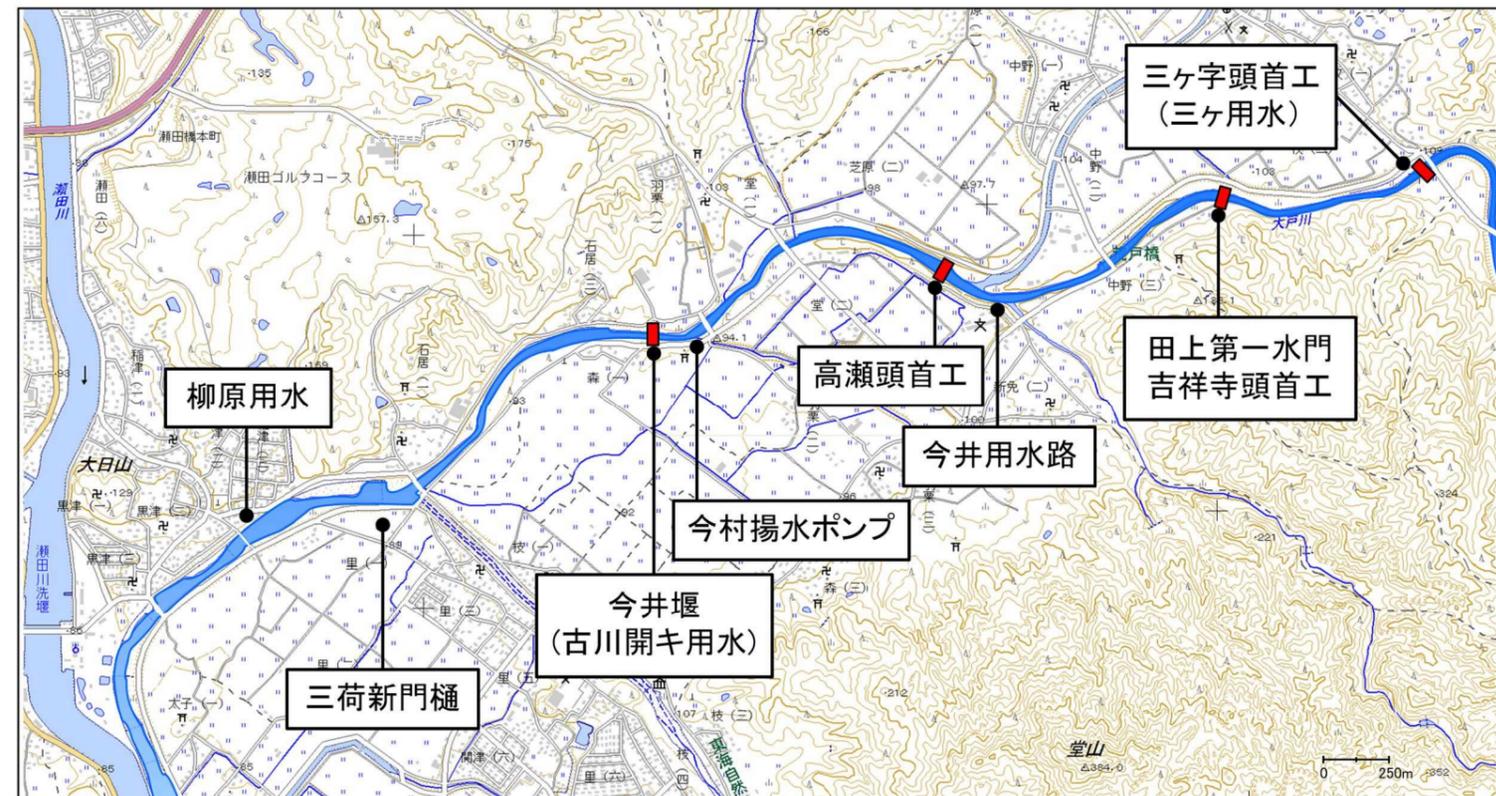
大戸川の河川水は、かんがい用水、飲料用水などの生活用水、水力発電に利用されています。特に下流部では穀倉地帯のかんがい用水として広く利用されています。

高橋川においては、平常時の河川流量が少なく、かんがい用水・工業用水などの水利用は存在しません。

現状では、流況や利水量が正確に把握できていないこともあり、平常時の流水が河川環境に潤いを与えていることの認識のもと、平常時かつ渇水時において、地域住民と連携しつつ流況の把握に努める必要があります。

なお、天井川の切り下げなど地下水への影響が想定される河川については、地下水への影響について調査が必要です。

## 出典・根拠

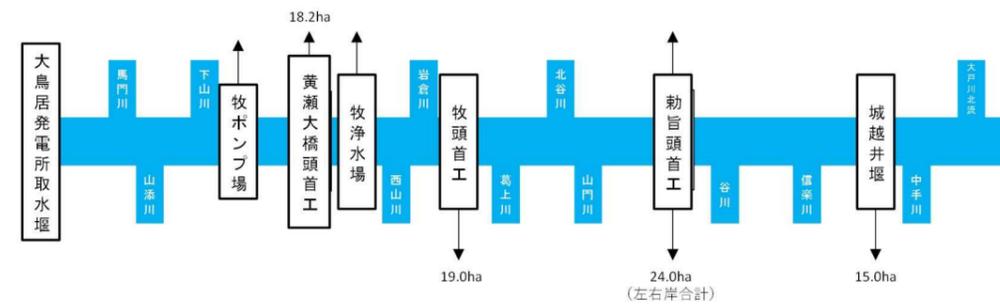
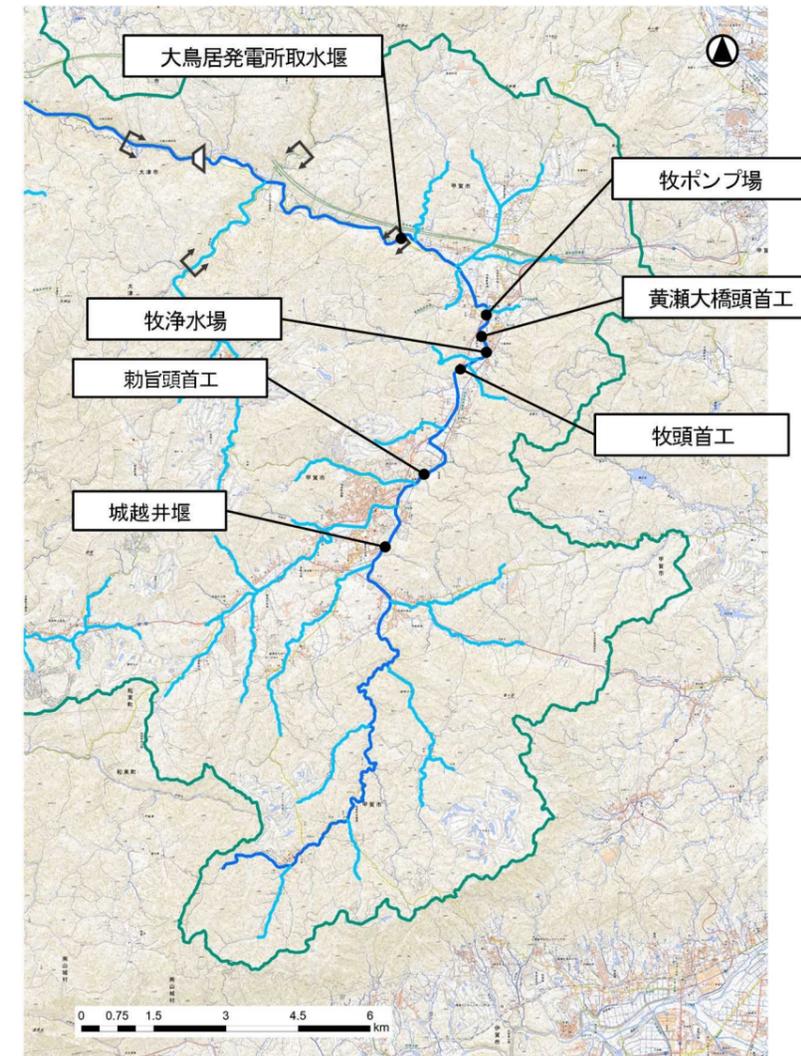


大戸川の利水の状況(下流域)

用排水系統図を基に作成

河川整備計画（本文）

出典・根拠



大戸川の利水の状況(上流域)  
【出典】《滋賀県大津土木事務所提供資料》

河川整備計画（本文）

1.2.3 河川環境に関する現状と課題

(1) 生物の生息・生育

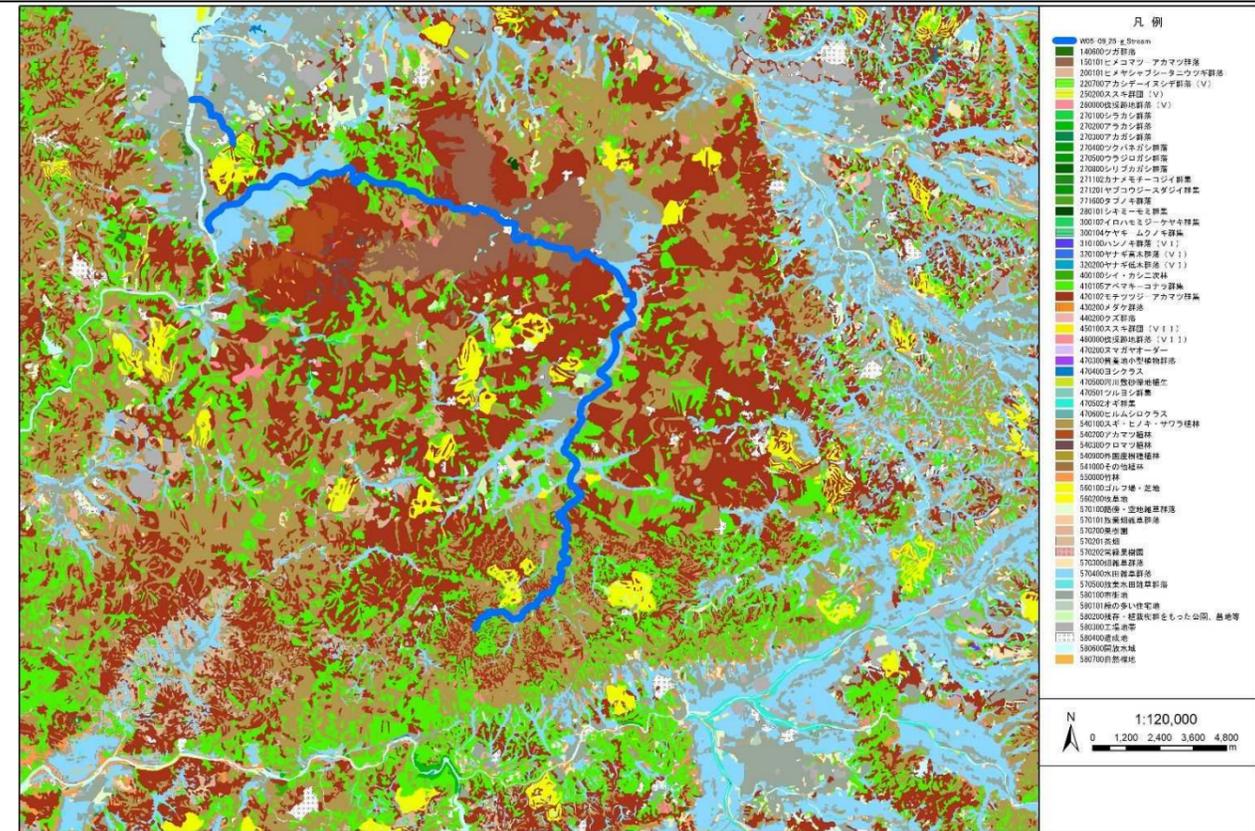
(植生)

圏域の大半を占める大戸川流域の植生は大きく分けて、西側の大部分のヒメコマツ-アカマツ群落とこれを取り囲むようにモチツツジ-アカマツ群集があります。また、スギ・ヒノキ・サワラ植林は流域全体に散在します。流域の上流部である甲賀市南東にはスギの巨木林が2箇所ある他、保全上重要として環境省が選定した特定植物群落は、流域内にいくつも存在し、中でも湖南花崗岩地域のヒメコマツ林は県内でも類を見ない大規模なものです。

一方、河道内の植生については、低地部では、ヤナギ類や草本植物が多く生育し、わずかではあります。外来種のコカナダモ（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）やオオカナダモ（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）などの沈水植物がみられます。その他、重要種としては河原に群生するタコノアシ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧）や水辺に生育するカワヂシャ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧）等がみられ、近年では信楽川と大戸川の合流地点において生態系に特に影響を及ぼす特定外来生物であるアレチウリ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）、オオカワヂシャ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）等も確認されています。山間部では、シダ植物であるジュウモンジシダやイヌガンソク、同じく山地性の木本植物であるアラカシやアカマツ、リョウブ、アセビなどが生育し、また溪流沿いには特有な植物も多く見られます。特に河岸の礫地や岩場にはヤシヤゼンマイ、カワラハンノキ、ネコヤナギ、ダイモンジソウ、コウヤミズキ、マルバノキ、ヒロハノヘビノボラズ、イワタバコなどの岩上によくみられる植物が多く生育しています。中でも、コウヤミズキ、マルバノキは多数確認されており、花崗岩地帯の特徴が現れています。

高橋川中下流部の川沿いの大部分は宅地化されており、人工的な様相となっています。しかし、中流部左岸の檜山神社、建部大社周辺には鎮守の森が、中流部の未改修箇所や名神高速道路の下流部分には桜並木が、杉本1号橋より上流の左岸側には竹林があります。また、東海道新幹線の上下流の右岸にはアカマツ、コナラなどの樹木が残され、左岸側は堤防天端にはツユクサ、ヨモギ、外来種であるセイタカアワダチソウ（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）などの生育が見られます。

出典・根拠



植生図

【出典】《第6,7回自然環境保全基礎調査 植生調査結果をもとに作成》

大戸川の保全すべき貴重な生物(植物)リスト

番号	科名	種名	重要種等指定状況	
			環境省版レッドリスト	滋賀県版レッドリスト
1	イネ	メガルカヤ		その他重要種
2	ナデシコ	フジナデシコ		要注目種
3	ヒユ	ヤナギイノコヅチ		その他重要種
4	マンサク	コウヤミズキ		分布上重要種
5		マルバノキ		分布上重要種
6	ユキノシタ	チャルメルソウ属の一種 タキミチャルメルソウ	準絶滅危惧種	その他重要種
7		シラヒゲソウ		絶滅危惧種
8	タコノアシ	タコノアシ	準絶滅危惧種	
9	オオバコ	カワヂシャ	準絶滅危惧種	
10	シソ	コムラサキ		その他重要種
11		ヒメナミキ		希少種
12	キク	カワラニガナ	準絶滅危惧種	
13	ラン	エビネ属の一種 エビネ	準絶滅危惧種	その他重要種

【出典】《平成12年度大戸川河川環境調査業務 報告書》(一部修正)  
令和3年度 第307-1号大戸川他河川改良環境調査業務委託 報告書(一部修正)

【環境省レッドリストの区分】  
絶滅 わが国ではすでに絶滅したと考えられる種  
野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種  
絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機にひんしている種  
絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種  
絶滅危惧ⅠB類 ⅠA程ではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種  
絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種  
準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によって「絶滅危惧」に移行する可能性がある種  
情報不足 評価するだけの情報が不足している種  
絶滅のおそれのある地域個体群 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

【滋賀県レッドデータブックの区分】  
絶滅危惧種 県内において絶滅の危機に瀕している種(亜種・変種を含む。以下同じ)  
絶滅危機増大種 県内において絶滅の危機が増大している種  
希少種 県内において存続基盤が脆弱な種  
要注目種 県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種  
分布上重要種 県内において分布上重要な種  
その他重要種 全国において近隣府県の状況から県内において注意が必要な種  
絶滅種 県内において野生で絶滅したと判断される種  
保全すべき群集・群落、個体群 県内において保全することが必要な群集・群落、個体群  
郷土種 1~8以外で県内で大切にしていきたい生き物

高橋川の植物確認種一覧表

番号	科名	種名
1	マツ	アカマツ
2	スギ	スギ
3	ヒノキ	ヒノキ
4	ヤナギ	ヤナギ
5	ブナ	クリ
6		クヌギ
7		アラカシ
8		ウバメガシ
9		ウラジロガシ
10		コナラ
11		アベマキ
12	クスノキ	クスノキ
13	ツバキ	ヤブツバキ
14	バラ	サクラ
15	マメ	カラスノエンドウ
16	モチノキ	ソヨゴ
17	ツツジ	ネジキ
18		モチツツジ
19		コバノミツバツツジ
20	キク	ブタクサ
21		ヨモギ
22		セイタカアワダチソウ
23		セイヨウタンポポ
24	ツユクサ	ツユクサ
25	イネ	ネザサ
26	カヤツリグサ	カヤツリグサ科

※高橋川では保全すべき貴重な生物(植物)は確認されなかった。

【出典】《滋賀建公共事業評価監視委員会 第2回委員会資料 参考資料高橋川環境情報図》

河川整備計画（本文）

（魚類）

圏域の大半を占める大戸川で確認されている魚類は、河川の下流域から中流域を主な生息域とする種類が大部分ですが、湧水のあるきれいな小川や池に生息するとされるホトケドジョウ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）やスナヤツメ南方種（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）などが確認されています。上・中流域ではアユの生息が確認されています。また、在来種の生息を脅かすとされる肉食性外来魚で特定外来生物のオクチバス（ブラックバス）（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）やカムルチーも少数ではありますが確認されています。

高橋川では、下流域でナマズ（滋賀県レッドデータブック：要注目種）、ミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、ドンコ（滋賀県レッドデータブック：その他重要種）や特定外来生物のブルーギル（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）が確認されています。

平成 21・22 年度に大津市環境政策課が実施した環境学習事業で、大戸川において「ギギ（滋賀県レッドデータブック：絶滅危惧種）」の生息が確認されました。

出典・根拠



写真 カマツカ



写真 ナマムツ



写真 モツゴ



写真 ウキゴリ



写真 ナマチチブ



写真 ムギツク



写真 ドジョウ



写真 スナヤツメ  
大戸川で確認された種



写真 ミナミメダカ



写真 ブルーギル  
高橋川で確認された種



写真 ドンコ

【出典】《平成 14 年度第 H19-6 号 高橋川広域河川改修（統合）調査設計委託報告書》  
《令和 3 年度 第 307-1 号 大戸川他河川改良環境調査業務委託報告書》

河川整備計画（本文）

（動物等）

圏域内の大半を占める大戸川流域の動物等としては、鳥類では、特徴的な種として、ミサゴ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）、トビ、ハクマ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）などの生息が確認されています。

ほ乳類では、山地にイノシシやニホンジカ、ニホンザル（滋賀県レッドデータブック：要注目種）といった大型ほ乳類の生息が確認されています。

一方、河川空間内でも河原を含めた範囲に生育するススキ・チガヤ・スゲ類・エノコログサなどに巣を作って繁殖するカヤネズミ（滋賀県レッドデータブック：希少種）が確認されていますが、これは洪水やそれに伴う土砂移動・草刈りなど人間の管理によっても影響を受ける河道内の草地の動態を通じて間接的に河川環境の状態とその生活が結びついていると推測されます。

両生類では、カジカガエル（滋賀県レッドデータブック：要注目種）、ナゴヤダルマガエル（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB類／滋賀県レッドデータブック：絶滅危機増大種）、トノサマガエル（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：要注目種）、アカハライモリ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：要注目種）などが生息しています。

は虫類では、比較的上流側の遮蔽物の多い環境に生息するニホンイシガメ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧／滋賀県レッドデータブック：希少種）と、比較的下流側に生息する外来種のクサガメの2種のカメ目の種や環境適応能力の高いニホンカナヘビやアオダイショウをはじめとしたトカゲ目の種、6種が確認されています。

高橋川で確認されている動物としては、鳥類では、トビ、ツバメ、スズメ、ムクドリなどの生息が確認されています。ほ乳類では、コウベモグラ（塚）およびドブネズミ（巣穴）（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）の生息が確認されています。両生類では、特定外来生物であるウシガエル（生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種）の生息が確認されています。は虫類ではニホントカゲ、ニホンカナヘビの他に条件付特定外来生物のアカミミガメ（生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種）の生息が確認されています。

このように、大戸川をはじめ圏域内の河川では、多種多様な生物や保全すべき貴重種が確認されており、生物の生息・生育環境が保全されるように努める必要があります。

出典・根拠



写真 カイツブリ



写真 ヤマセミ



写真 カワセミ



写真 シギ

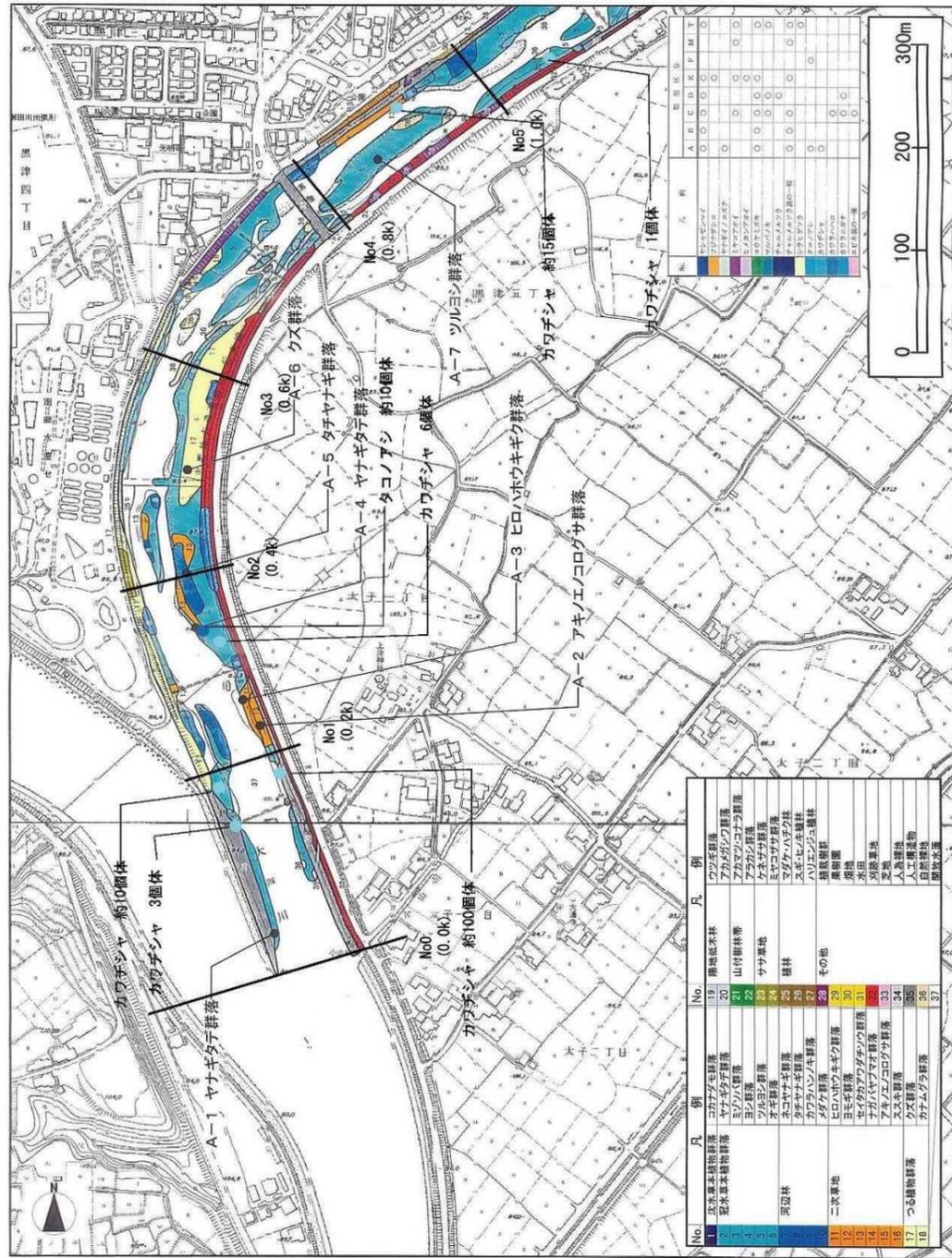


写真 ミシシippiaアカミミガメ



写真 トノサマガエル

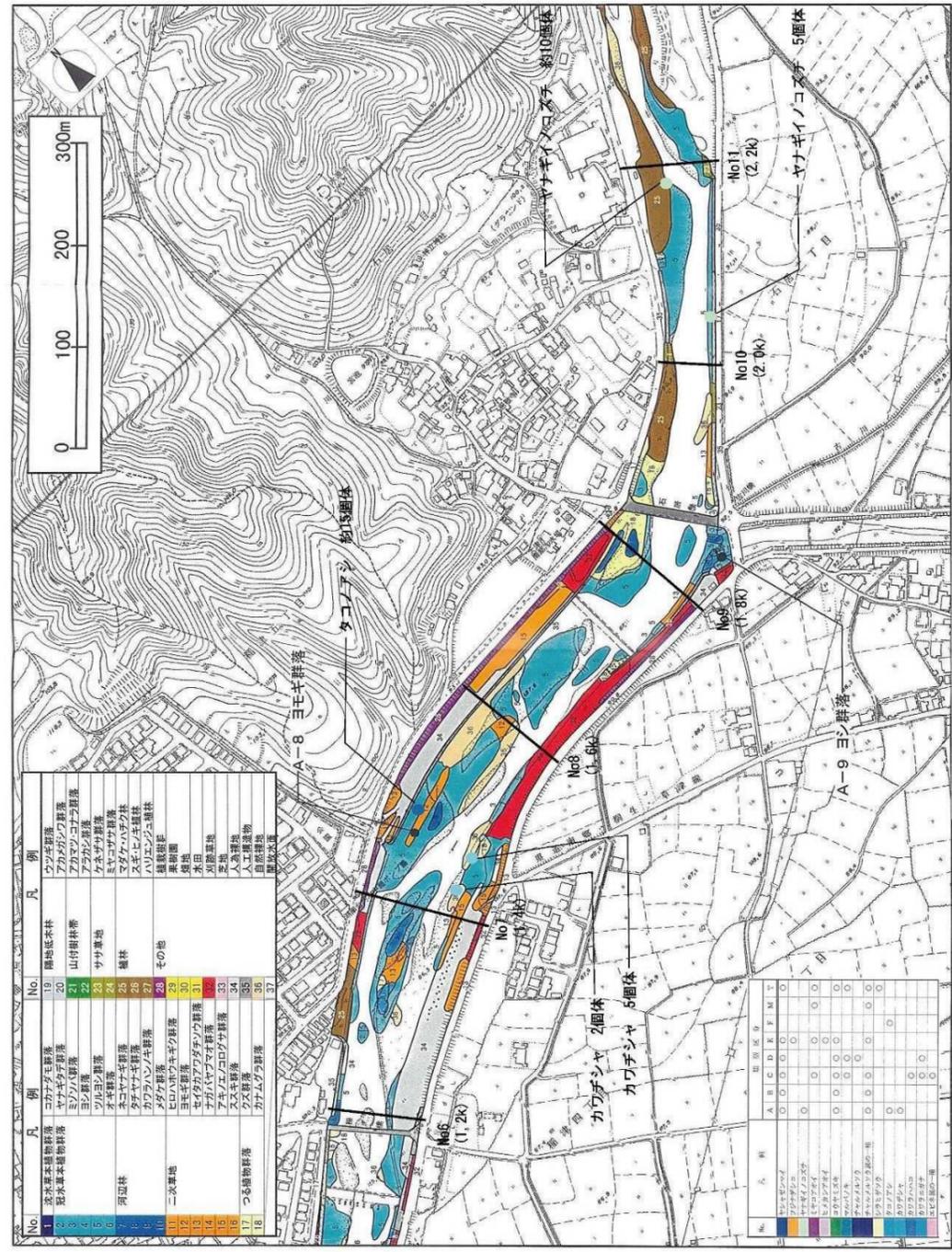
大戸川・高橋川で確認された種



大戸川環境情報図下流域(1/5)

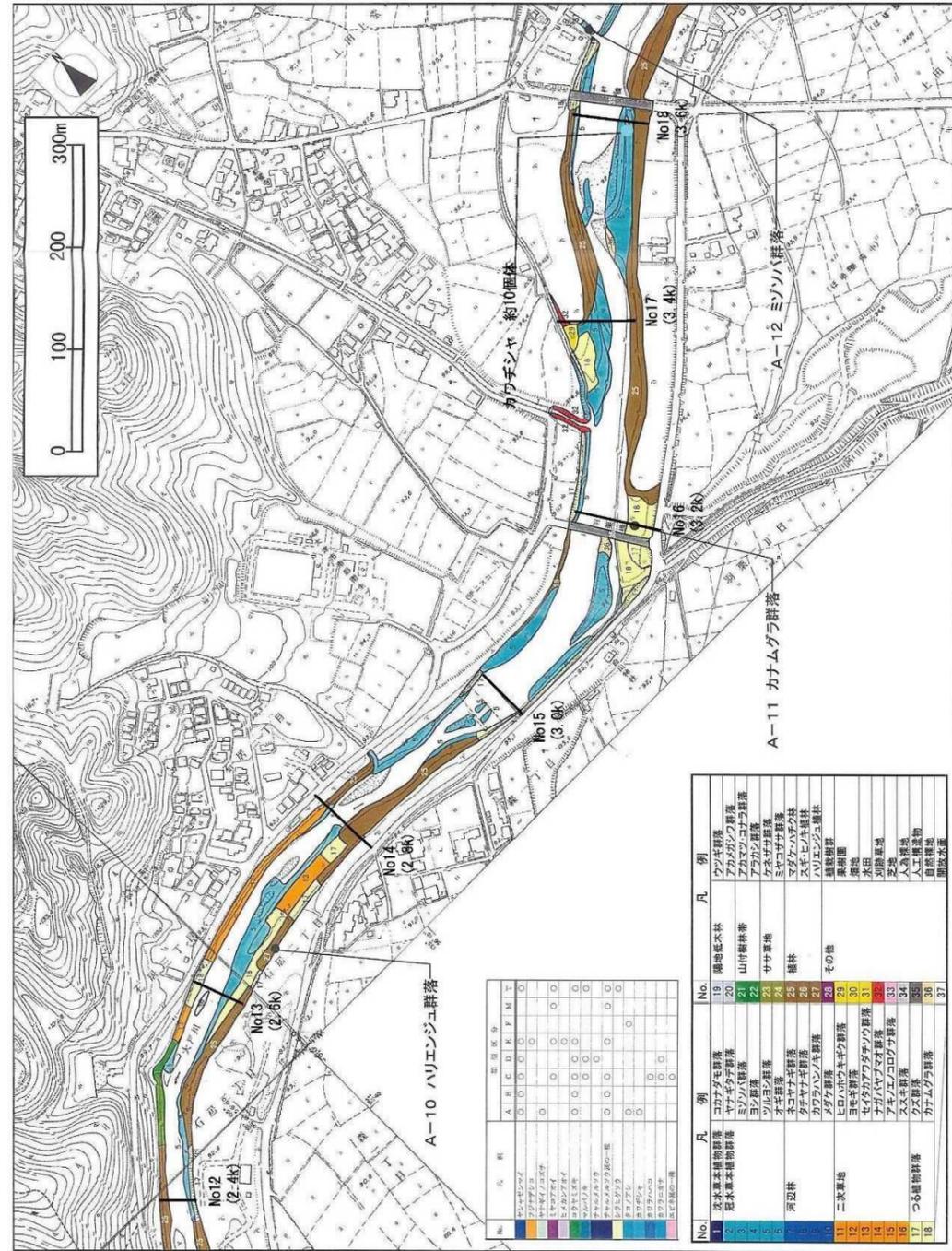
【出典】《平成12年度大戸川河川環境調査業務 報告書》

※調査当時の分類に応じて整理

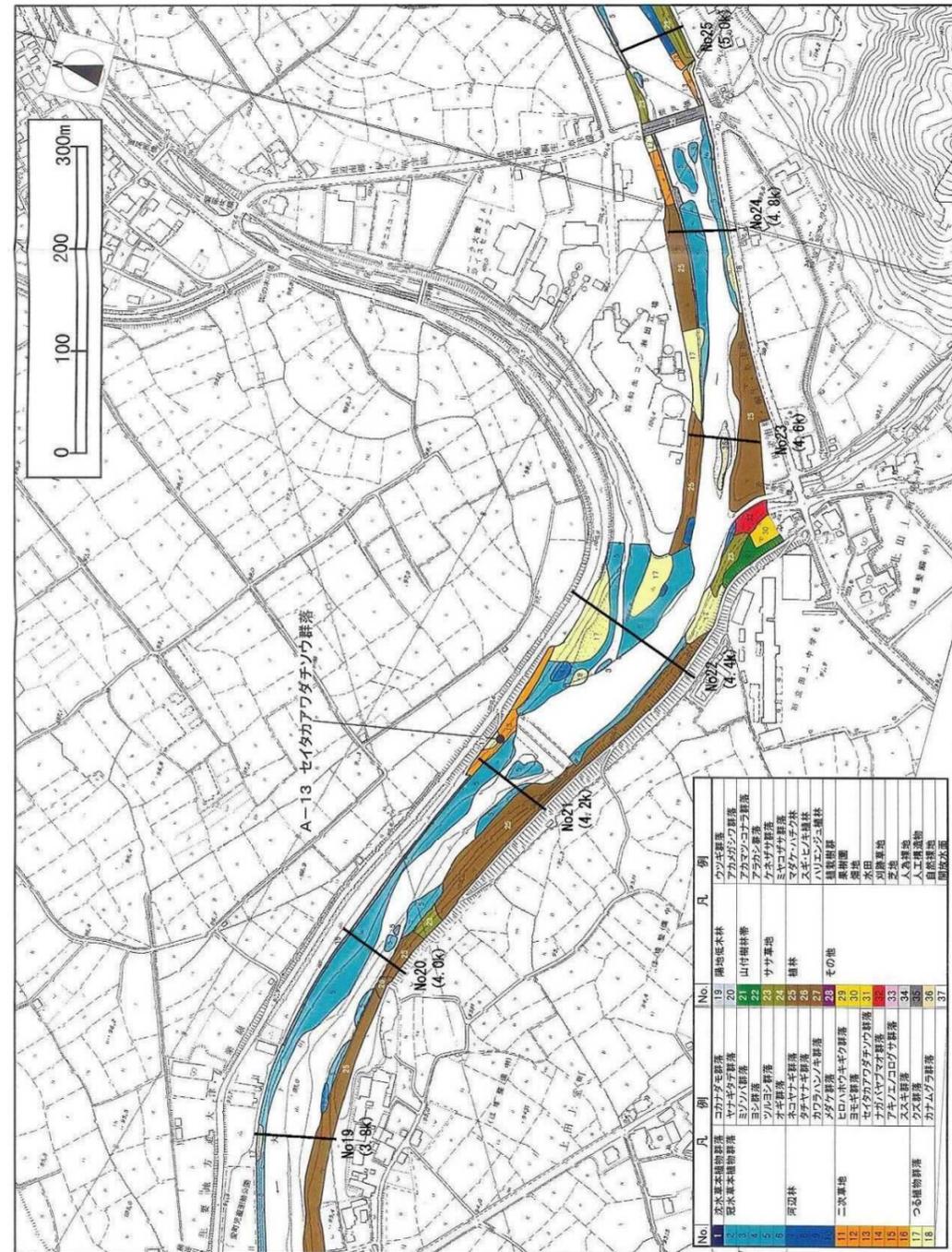


大戸川環境情報図下流域(2/5)

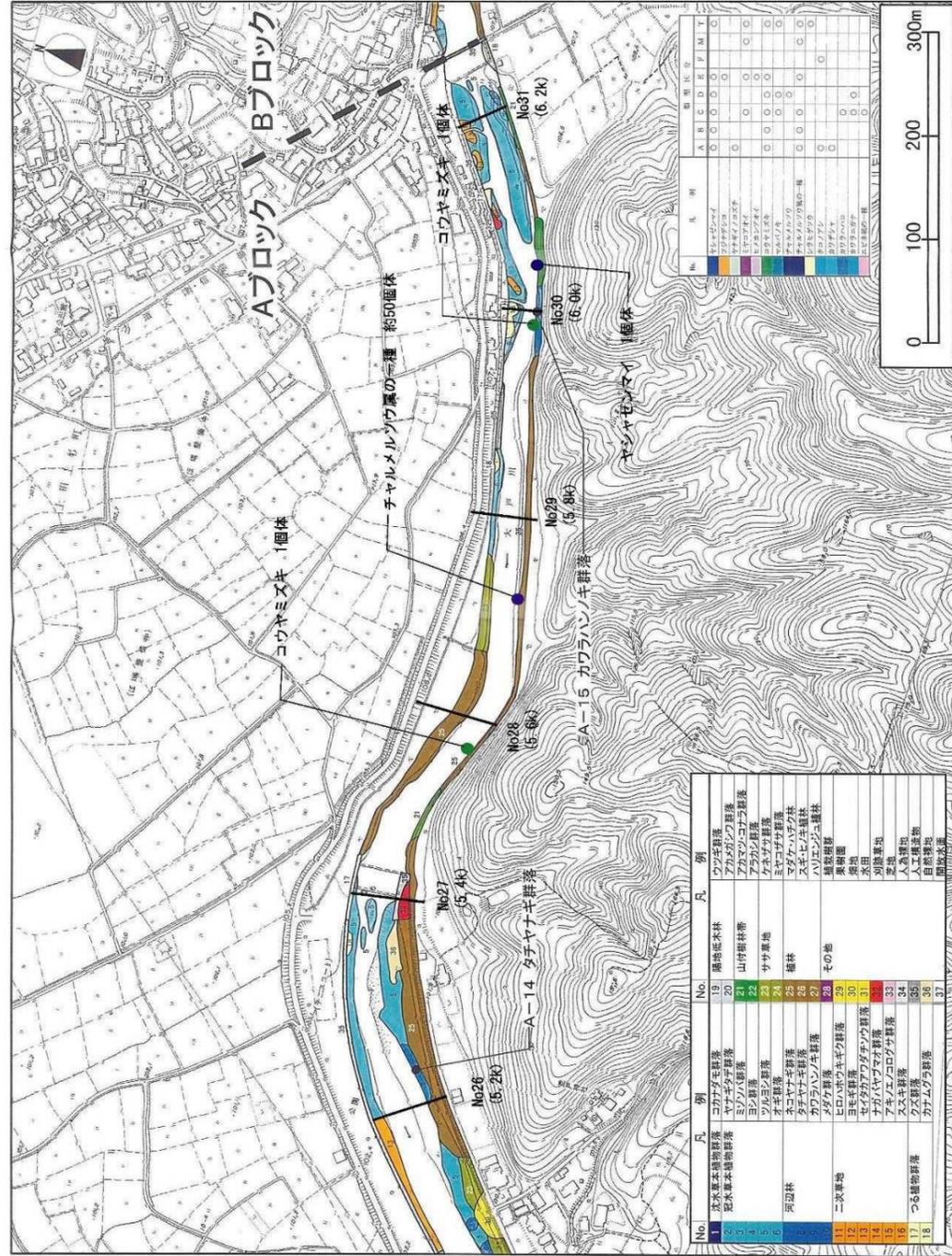
※調査当時の分類に応じて整理



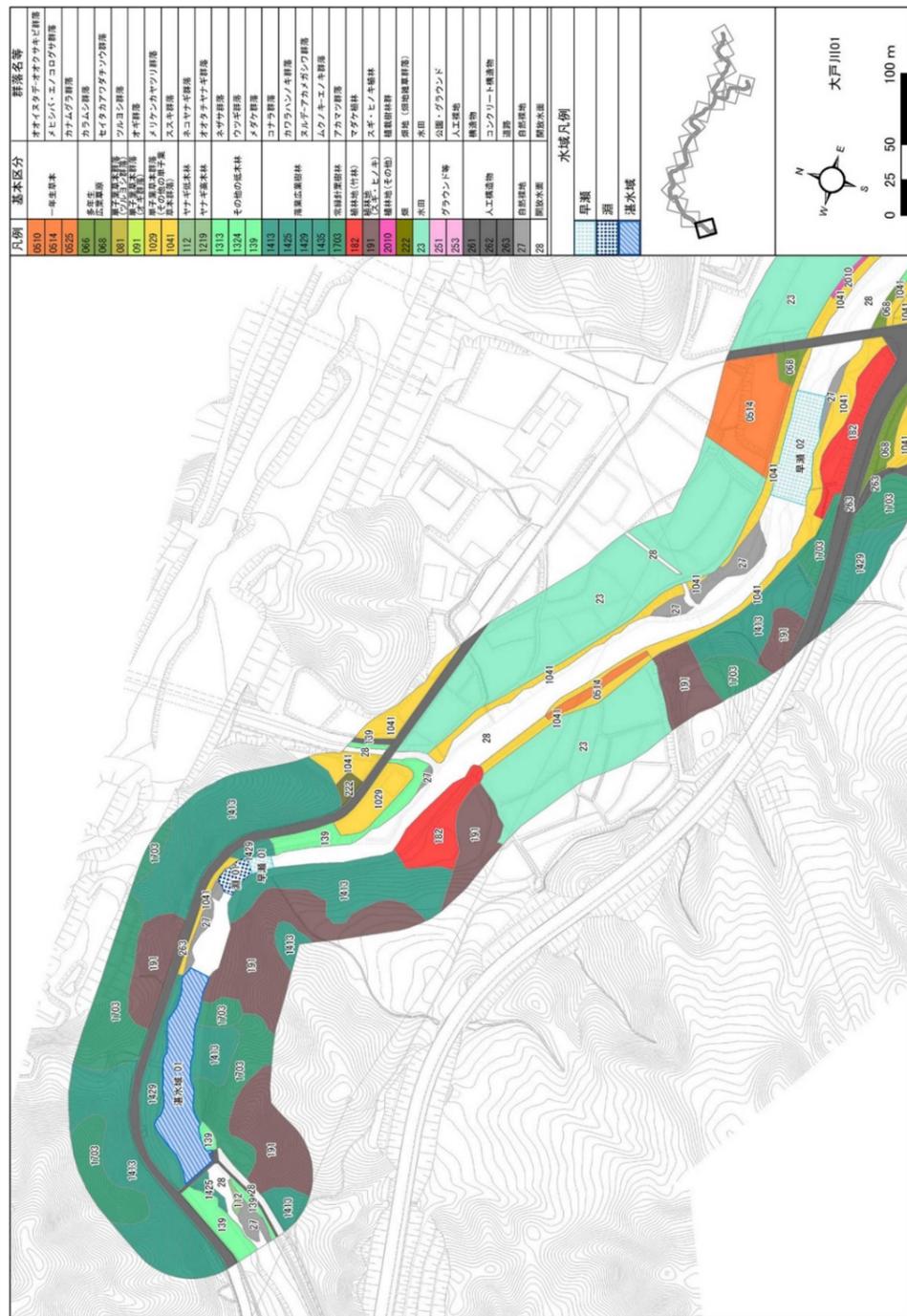
大戸川環境情報図下流域 (3/5)  
※調査当時の分類に応じて整理



大戸川環境情報図下流域 (4/5)  
※調査当時の分類に応じて整理

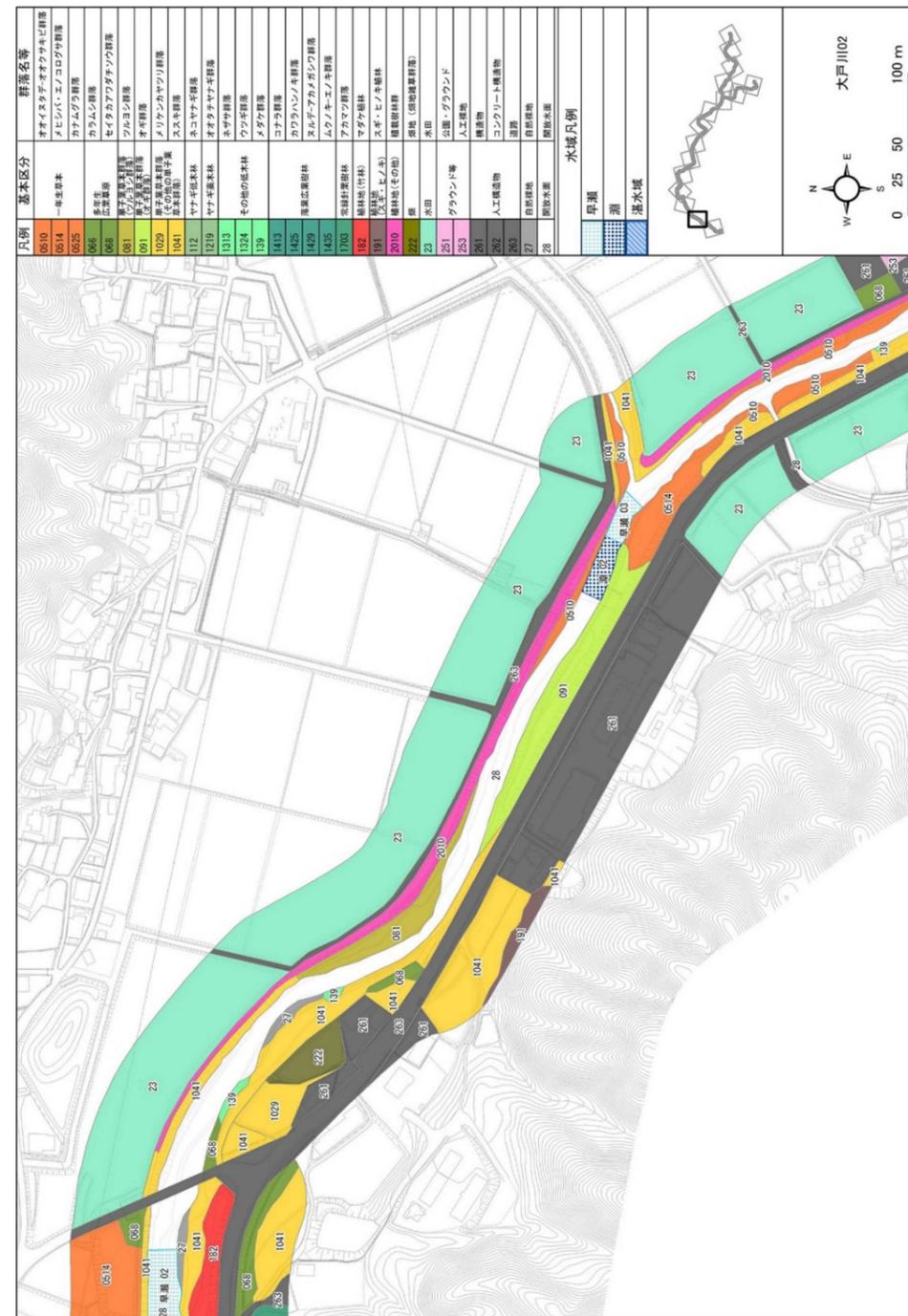


大戸川環境情報図下流域(5/5)  
 ※調査当時の分類に応じて整理



大戸川環境情報図中流域(1/16)

【出典】《令和3年度 第307-1号 大戸川他河川改良環境調査業務委託報告書》



大戸川環境情報図中流域(2/16)